

脳、神経、筋肉、感覚…神経内科は患者さんをトータルで診て最適な診療を行います

神経内科をご存知ですか？

神経内科が扱う病気は？

頭痛、脳卒中、認知症、パーキンソン病、てんかんなど、脳や脊髄、神経、筋肉などが関係する病気を見つけて治療します。

神経内科は脳、脊髄、神経、筋肉などの病気を発見・治療します。脳や体の一部分だけを診るのではなく、患者さんの脳の働き、五感、体とその動きなど、全身をしっかり診察して、そこに隠れる病気を見つけるのが神経内科医。体の不調を感じチェックリストのような症状がみられたら、神経内科を受診して下さい。他の診療科とも協力して、健康を取り戻す道を探ります。

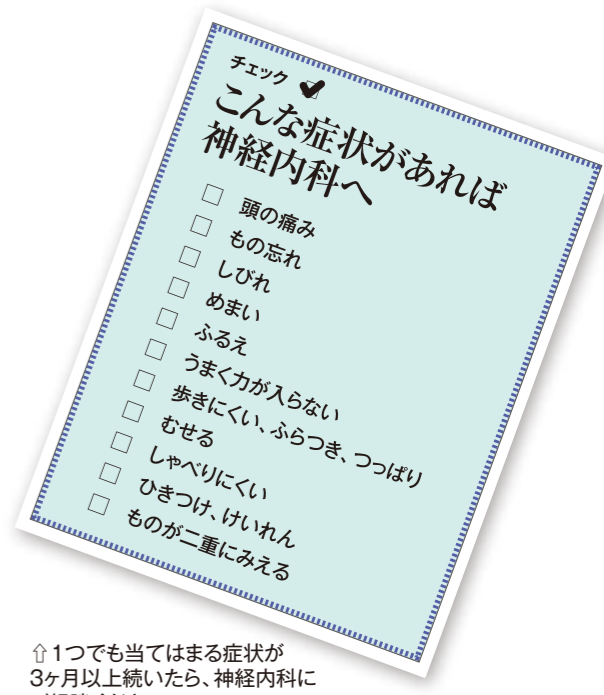
日本神経学会代表理事のご挨拶

高橋 良輔 日本神経学会代表理事
京都大学医学部神経内科教授

神経内科では、頭痛、認知症、脳卒中など、比較的病者さんの多い病気から、患者さんの少ない神経難病までを扱います。患者さんをしていねいに診察して病気の真実を把握し、さまざまな検査を加えて原因を突き止め、患者さん一人ひとりの生活に即した最善の治療法を提供するのが神経内科医です。全身に張り巡らされた神経は、脳を使って思い出したり、考えたりする認知機能から、筋肉を使って歩いたり走ったりする運動機能、視覚・聴覚・温度覚・痛覚・触覚などの感覚器を用いた情報伝達機能、さらには呼吸・消化循環・発汗などにいたるまで、体全体がうまく調和し、機能するために休まなく働いています。神経内科医は、全身をコントロールする神経の不調を的確に診断する「全身を診るお医者さん」として、とても貴重な存在です。



(上段左より) 山口大学 神田隆 教授/広島大学 松本昌泰 教授/札幌医科大学 下濱俊 教授/大阪大学 望月秀樹 教授
(中段左より) 日本大学 亀井聡 教授/近畿大学 楠進 教授/京都大学 高橋良輔 教授/北海道大学 佐々木秀直 教授/岡山大学 阿部康二 教授
(下段左より) 国立精神・神経医療研究センター病院 水澤英洋 院長(東京医科歯科大学 特任・名誉教授)/新潟大学 西澤正豊 教授/東京大学 辻首次 教授/名古屋大学 祖父江元 特任教授



1つでも当てはまる症状が3ヶ月以上続いたら、神経内科にご相談ください。

神経内科が扱うおもな病気(日本神経学会監修)

- パーキンソン病**
パーキンソン病は原因不明の難病と言われましたが、研究が進み、早期に見つけて治療をスタートすれば、運動機能の著しい低下を抑えることができます。神経内科医は豊富な知識から治療法を示唆します。
- てんかん**
日本には子どもから高齢者まで約100万人のてんかん患者さんがいます。神経内科では患者さんの症状や発作のようすに合わせて治療を行い、70~80%は症状がなくなり、生活の質を損なうことなく普通の生活が送れるようにしております。
- 頭痛**
頭痛は誰でも経験したことのある病気ですが、慢性化すると自分・社会・家族にまでダメージを与える社会的損失の大きい病気です。「頭痛から解放されたい」と思ったら、一度神経内科を受診してください。
- 認知症**
近年、画像・診断マーカーなどで早期発見でき、治療も開発された認知症。神経内科ではトータルに全身を管理して患者さんと家族とのコミュニケーションを大切にすることができています。
- 脳卒中**
日本人の5人に1人が脳卒中を発症し、その4分の3以上は内科的な治療が必要な脳梗塞です。神経内科では内科的な治療はもちろん、脳卒中を未然に防ぐ検査や再発予防対策を行っています。

神経内科医から読者の皆様へのメッセージ

水澤英洋
国立精神・神経医療研究センター病院 院長
(東京医科歯科大学 特任・名誉教授)
第23回世界神経学会(WCN2017)会長

2017年9月、京都で世界中の神経内科医が参加する第23回世界神経学会(WCN2017)が開催されます。わが国の神経内科の研究レベルの高さは世界トップクラスです。脳神経疾患の克服に向けて、超高齢社会を迎えた日本が世界を牽引し、国際会議を通じて世界の健康長寿に貢献します。

祖父江元
名古屋大学医学部神経内科
脳神経病態制御学特任教授

脳神経疾患には、有効な治療法があるものも多岐にわたる一方で、認知症や神経難病などは、その手がかりがまだなく、患者数も高齢化に伴い、年々増加しています。これらの疾患の克服は世界の願いであり、その予防法と治療法の開発に向け、私は日夜、努力を続けています。

阿部康二
岡山大学大学院脳神経内科学教授

神経内科では脳や神経の障害に対し、急性期治療、脳保護療法、遺伝子治療、再生医療の開発研究を精力的に行っています。このように多面的に治療法を開発して選択肢を広げ、患者さんの症状に合わせて最善の治療を提供して脳と神経を守ることが私たちの使命です。

望月秀樹
大阪大学大学院医学系研究科
神経内科学教授

私たちが神経内科医は、日常診療を通じて患者さんとご家族のQOLの維持・向上に努めています。さらに難治性の中核神経疾患や神経筋疾患の克服に向けて、新たな視点からアプローチするオリジナリティーあふれる研究を進め、その成果を世界に発信しています。

亀井聡
日本大学医学部内科学系神経内科学分野
主任教授

神経内科では、ヘッドサイドからベンチ、そしてベンチからベッドサイドへ」というキヤッチフレーズのもと、かつて多くが原因不明だった神経疾患の原因を解明すること、そして、病気の治療、病気の予防に貢献することを目標として、診療と研究を進めています。

辻首次
東京大学医学部大学院医学系研究科
神経内科学教授

神経内科では、ヘッドサイドからベンチ、そしてベンチからベッドサイドへ」というキヤッチフレーズのもと、かつて多くが原因不明だった神経疾患の原因を解明すること、そして、病気の治療、病気の予防に貢献することを目標として、診療と研究を進めています。

楠進
近畿大学医学部神経内科学教室教授

神経内科疾患は、ここ10~15年間に治療法の開発が大きく進みました。多くの病因遺伝子が明らかになり、治療法開発の手がかりが得られています。さらにイメージングをはじめとする高次脳機能の研究も盛んに行われるようになり、神経内科はエキサイティングな医学のフロンティアです。

佐々木秀直
北海道大学大学院医学研究科
神経内科学分野教授

神経内科の診療における基本姿勢は丁寧な問診と診察にあります。神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、骨格筋に障害をきたす様々な疾患を内科的に診療する基本診療科の一つです。疾患によっては急性期から慢性期の在宅療養支援まで、幅広い領域を診療しています。

松本昌泰
広島大学大学院医学系研究科
脳神経内科学教授

認知症、脳卒中など、脳にかかわる病気は超高齢社会の中で最も重要な「国民病」の一つとなり、新たな診断法、治療法、リハビリテーション、社会システムの構築などが早急に求められています。神経内科はこのような社会の要請に応えるべく、日々研鑽努力を重ねています。

神田隆
山口大学大学院医学系研究科
神経内科学教授

難病に対する、独自の研究を世界に発信

阿部康二
岡山大学大学院脳神経内科学教授

治療法を研究開発し、脳と神経を守る

望月秀樹
大阪大学大学院医学系研究科
神経内科学教授

病気の痛みや苦しみを和らげる医療を届ける

亀井聡
日本大学医学部内科学系神経内科学分野
主任教授

どんな診療も患者さん本位で、あきらめずに

楠進
近畿大学医学部神経内科学教室教授

神経内科は、医学のフロンティア

下濱俊
札幌医科大学神経内科学講座教授

人に対する優しさが医療の基盤

第56回日本神経学会学術大会について
新潟大学脳研究所 神経内科学分野 教授
西澤 正豊 第56回日本神経学会学術大会 会長

第56回日本神経学会学術大会は、平成27年(2015年)5月20日(水)から23日(土)まで、新潟市の朱鷺メッセをメイン会場として開催します。今回の新潟大会におけるメインテーマは「社会の中の神経学~神経内科の社会貢献を考える~」としました。超高齢社会において、神経学とこれを実践する神経内科の果たすべき役割を改めて見直す機会としたいと思っております。神経内科の社会的役割を広く市民にも理解していただけるように、神経内科を啓蒙するイベントも連日開催します。さらに大会終了の翌日には市民公開講座も予定しています。

第56回日本神経学会学術大会
平成27年(2015年)5月20日(水)から23日(土)まで、新潟市の朱鷺メッセをメイン会場として開催します。

脳を守り人を守る
ことが使命

脳を守り人を守る
ことが使命

お問い合わせ 第56回日本神経学会学術大会 運営事務局
TEL 03-5216-5318 http://www.congre.co.jp/neuro56/

一般社団法人 日本神経学会 神経内科フォーラム

*神経内科フォーラムは、神経内科の認知・啓蒙を促進するための活動を行う任意団体として2013年に設立されました